

第3回学校運営協議会（2019.2.21）議事録

出席者

協議委員・・・川村幸治、早坂三郎、藤田政治、綿世良一、濱田陽子（欠席：寺野雅之）
教員・・・（校長）亀元政志、（教頭）藤原清隆、坂東哲、（首席）松井くみ子、西本敦史
記録・・・西本敦史

次第に沿って

1. 校長より挨拶
2. 本校教育の現状についての説明

●平成30年度学校教育自己診断の結果について（藤原教頭）

生徒回答数 487、保護者回答数 252、教員回答数 50（全）

生徒回答の結果・・・下落したものがある。→真摯に受け止め、対応していきたい。

「授業がわかりやすく楽しい」→（マイナス 6.1%）

分析

- ・学校の授業というものの自体に苦手意識が強い生徒が増加している。
- ・生徒が科目個別で回答する授業アンケートの結果を見ると、肯定率がかなり高い水準であるため、自分の苦手な科目のイメージに引っぱられている部分はあるのではないか。

対策

⇒わかりやすい授業（エバーサルゲザイ授業、ICT活用）の取り組みをはじめ、浸透してきている。今後も質を高めていきたい。

「学校生活についての先生の指導は納得できる」→（マイナス 7%）

分析

- ・装飾品指導、スカート指導、口紅指導と、指導をレベルアップさせていることが要因ではないか（保護者回答を見ると、数値は上昇している(79.8%)）
- ・SNSなどで他校の情報が入りやすく、他校にはない指導に抵抗があるのではないか。

対策

⇒生徒に説明して理解されるように、丁寧に対応しながら指導していきたい。

⇒今後のコミュニケーションの取り組みにおいて、教員としてのアプローチの手法について、引き出しを増やすような研修をしていきたい。

●第2回授業アンケートの結果について（坂東教頭）

*全体の数値は、かなり高い水準（平均肯定率 89%）である。数値に関してはやや頭打ちの印象がある。

- *設問 8「授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている」、および設問 9「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」については、今年度第 1 回でやや数値は下がったが、第 2 回の結果では、昨年と同じ数値となった。

●平成 31 年度学校経営計画について

3. 協議（テーマ：本校教育の全般について）

- *茨田高校に入学してよかったと感じている。先生方にとっても感謝している。
- *茨田高校のイメージは悪かったが、最近はそういった声を地域から聞くことはない。
- *授業アンケートで、生徒自身が「しっかりやっている」と回答している数が多いことに注目した。これはいいことだと思う。
- *子どもが「納得できない」と感じる指導が全て良くないわけではない。必要な指導はしっかりやっていくべきだと思う。実際、茨田高校はこの数年でとてもよくなった。先生方の指導の成果ではないかと考えている。
- *普通科というものが、外向きにプラスイメージにならない情勢がある。学校の種類もここ数年で大きく変わり、選ぶ側は統合などの動きも視野に入ってくるのは仕方ない。学校ががんばって何とかなる問題ではない教育行政の影響が大きい。今後の学校改編も視野に入れた取組みというものを意識することも必要なのかもしれない。茨田高校が様々な取組みで十分に力を尽くしてきたことは、まぎれもない事実である。
- *トイレが綺麗なことは、印象としては非常に重要である。保護者や生徒の声は費用をかけるエビデンスには十分なるのではないか。
(今年度予定していたが、災害などで予算が先送りされている状況。)
- *部活動は、授業以外の生徒が学校生活の充実を感じるものにつながるはずである。
- *学習支援機能に関しては、現在取り組んでいる補習や自習室の取組みを、もっと外部にアピールする工夫が必要ではないか。
- *遅刻削減対策に関しては、十分な成果をあげている。このことをわかりやすく外部に示す方法を工夫していく必要がある。
- *部活動について、全国的に部活動については議論が巻き起こっている。
- *生徒が授業以外で学校生活に充実感を持てるためには、部活動もひとつの選択肢であるはず。部活動の意義は少なからずあるはずである。

●学校経営計画の承認について

- *数値目標の示し方について、わかりやすくするための修正案をいただいた。